

セミナープログラム

平成23年8月30日(火) 静岡県立大学 大講堂にて

- 13:00～13:15 開会の辞
- 13:15～14:15 「半世紀に至る日本の国民皆保険制度と今後の保健システム強化の課題(仮題)」
マイケル・ライッシュ (ハーバード大学教授)
- 14:15～14:25 <休憩>
- 14:25～15:00 パネルディスカッション「静岡県の地域医療の課題」
静岡県内で最も課題を抱える中東遠医療圏から公立病院長3人がパネリスト
ファシリテーター 神原啓文 (静岡県病院協会会長)
- 15:00～15:55 「医療保険制度改革と地域医療の在り方」
武見敬三 (東海大学教授)
- 15:55～16:00 閉会の辞

近年のように発達した医療提供においては、かつてのような「施設完結型」ではなく、「地域完結型」が妥当であることは、医療および政策関係者の間で意見が一致するところです。しかしながら実際のところは、普遍的な成功を収める地域完結型医療提供の事例が皆無に等しく、その理由として、「地域」の捉え方が曖昧であることが指摘できます。たとえば、世界の中で日本は極東アジア地域に位置すると表現されたり、また、静岡の東部というエリアを指して地域の議論がなされたりといった具合です。要は、議論のたびに対象を絞る目的で地理的要件を確認するものが「地域」ということでしょうか。このことは、「地域医療」なる用語の曖昧さと通じるところがあります。武見敬三東海大学教授によると、世界保健機構WHOでもかねてより地域医療の重要性を取り上げながらも、定義の曖昧さが災いしてか、近年は議論のとりまとめを放棄した感があるとのこと。ちなみに、地域医療の英訳は一般的にCommunity Healthcareですが、「コミュニティー」が眼目とする「地域」は、日本で言うところのせいぜい「市町」という行政区域です。ところが、医療提供においては、「主として病院の病床及び診療所の病床の整備を図るべき地域単位」と定義されるわが国の二次保健医療圏、すなわち、市町村単位ではなく、複数の市町村を一つのまとまりとした「実医療圏」相当が、地域医療として検討するにふさわしいと考えます。そこで、「地域医療」をRegional Healthcareを念頭に置いた「実医療圏」として捉え、かねてより指摘される日本の医療提供体制の低い生産性の改善策についての研究が急がれるものと思います。とくに、このたびの大震災で日本はヒト・モノ・カネの多くのリソースを失っただけに、地域医療の復興に生産性向上は重要かつ緊急の課題です。

■静岡県立大学創立25周年記念特別公開セミナー申込書■

静岡県立大学 医療経営研究センター 現代社会福祉経営研究室 行
E-mail: chms@u-shizuoka-ken.ac.jp / Fax: 054-266-5210

ご参加希望者様：平成23年8月25日(木) 〆切

	(ふりがな) 氏 名	所 属	役 職
①	()		
②	()		
③	()		

ご連絡先： *お申込みご担当者様のお名前を右()にご記入ください。→()

(ご住所) 〒

(ご連絡先) E-mail:

Tel:

Fax:

※ご記入頂いた情報は医療経営研究センター・現代社会福祉経営研究室で正確に管理するよう努め本セミナーもしくは本事業に関する目的以外の利用はしません。又、申込者の同意がある場合及び行政機関等から法令等に基づく要請があった場合を除き、第三者への提供又は開示をしません。

静岡県立大学創立25周年記念特別公開セミナー

静岡で日本の地域医療体制を考える